

公益財団法人 野球殿堂博物館

特別連載

Vol.20

日本職業野球連盟 連盟旗

前回で紹介した1934年の日米野球をきっかけに、同年12月26日「大日本東京野球倶楽部（現在の読売ジャイアンツ）」が結成、これが現在の日本プロ野球史のスタートとされており、2014年プロ野球は80周年を迎えました。

1935年12月には「大阪タイガース（現在の阪神タイガース）」が、36年に入ると「名古屋（現在の中日ドラゴンズ）」、「東京セネタース」、「阪急（現在のオリックス・バファローズ）」、「大東京※」、「名古屋金鯱」が次々と誕生。2月5日、7球団により日本職業野球連盟が設立され、同年からプロ野球公式戦がスタートしました。

写真は日本職業野球連盟の連盟旗です。当時の連盟略称“NPBL”と球団数と同じ7つの輪を組み合わせたマークとなっています。

36年9～12月に全7球団で行われた「第2回全日本野球選手権試合」が初のペナントレースとされ、巨人とタイガースが年度優勝決定戦（洲崎球場 12月9～11日）を戦い、巨人が初優勝。37、38年は春と秋の2シーズン制、39年から1シーズン制となりました。球団数も増え、37年春から「イーグルス」、38年秋から「南海（現在の福岡ソフトバンクホークス）」が加盟

し、40年まで9球団で行われました。

しかし、プロ野球も次第に戦争の影響を受けるようになり、40年秋からは、英語の使用禁止などの改革が行われ、また、選手の出征も相次ぎチーム編成も厳しくなっています。そして球団数も44年には6球団へと減少、同年シーズンを短縮して終了し、プロ野球はついに一時休止となりました。



終戦後の45年11月、プロ野球は「東西対抗戦」を開催し復活。翌46年からは8球団によりペナントレースが再開されました。

※「大東京」は後継球団の松竹ロビンスが、1953年に大洋ホエールズ（現在の横浜DeNAベイスターズ）と合併しており、DeNA球団の前身のひとつともいえる。「東京セネタース」、「名古屋金鯱」、「イーグルス」は戦前に消滅した球団。



「鎮魂の碑」

東京ドーム選手駐車場入口の手前にある「鎮魂の碑」には、この戦争で命を落とされたプロ野球人、約70名の方々の名前が刻まれています。21ゲート隣の野球殿堂博物館とともにぜひ一度お立ち寄りください。

公益財団法人 野球殿堂博物館 学芸員 関口 貴広